

XML コンソーシアム部会紹介セミナー

部会活動サマリー紹介」

- 1.2004 年度 部会活動成果
- 2.2005 年度 部会活動計画
3. XML コンソーシアム組織図

1.2004 年度 部会活動成果

(1) SOA 部会

部会ミーティング

BI 研究部会と共催で 2004 年 7 月-2005 年 5 月まで毎月 1 回 計 11 回開催

主な議論のテーマ

SOA の普及啓発

SOA に関わるデザインパターンの調査・研究

成果発表(BI 研究部会と共同)

第6回 XML コンソーシアム Day(2005 年 1 月 13 日)でのプレゼンテーション

SOA のパターンとベストプラクティス

販売管理業務を題材にしたビジネスプロセス分析報告

サプライチェーンの付加価値向上のための SOA ベースモデリング

XML コンソーシアムセミナー(2004 年 9 月 15-17 日)でのプレゼンテーション

ユーザ企業にとっての IT -Web サービス、SOA の意義と対応への一考察

Web サービス活用の実際

SOA 概説

他団体と協調しての普及・啓発活動

モデリングフォーラム(2004 年 9 月 21 日)講演 :モデルとパターンで実現する SOA

UML フォーラム 2005(2005 年 4 月 26 日)パネル討論会 :XML + UML = Business

情報処理学会誌 連載 Web サービスの編集・執筆

成果物

XML コンソーシアム編集の書籍「リアルWeb サービス」執筆への協力(座談会、規格解説、SOA 概説等)

SOA の普及啓発のための解説書

コンソーシアム Day やセミナーでのプレゼン発表資料(Web で公開)

SOA のパターンとベストプラクティス

販売管理業務を題材にしたビジネスプロセス分析報告

サプライチェーンの付加価値向上のための SOA ベースモデリング

ユーザ企業にとっての IT -Web サービス、SOA の意義と対応への一考察

Web サービス活用の実際

SOA 概説

(2) セキュリティ部会

目的

XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用に向けて、規格の調査・翻訳・解説を行ない、また、アプリケーションモデルの検討・試作を通じてシステム構築における様々な問題点の解決方法や具体的な実装ノウハウを蓄積すると共に、それらの成果物を公開することによりセキュリティ技術の普及を促進させるべく活動を行なう。

活動内容

標準規格文書の翻訳、公開

- OASIS Web Services Security: SOAP Message Security V1.0 (WS-Security 2004)

標準規格及び関連技術の調査と解説資料作成

- Web Services Security

- SAML 2.0

- セキュリティ関連 XML 標準技術規格マップの更新

開発ツール、ミドルウェア等の調査および比較検討

- WS-Security 2004 のサポート状況

活動期間

2004年7月~

成果物

日本語翻訳

- 2005.03.31

OASIS Web Services Security: SOAP Message Security V1.0 (WS-Security 2004)

コンソーシアム主催セミナーでの発表

- 2004.12.02

関西での活動を盛りあげよう集会

- 『Web サービスのセキュリティ』
- 2005.01.13
コンソーシアム Day
『セキュリティ部会の取り組み - セキュリティ関連XML 規格の解説』
- 2005.06.07 (予定)
コンソーシアム Week
『セキュリティ関連XML 規格の紹介』
『Web Services Security の概要と今後の状況』
『WSS の実装状況について』
『Web サービス認証とサイト間連携認証～SAML V2.0』

(3) Web サービス実証部会

活動目的

WebサービスおよびXMLを実システムに適用するにあたり、実ビジネスを想定したプロトタイプシステムの開発を通して、多くの技術者が抱えている技術的な課題の解決手段をみずから発見、公開し、XML/Webサービス利用技術の向上および普及に努める。

活動内容

プロトタイピング

- 実用システムのプロトタイプ開発
- XML応用規格を利用したプロトタイプシステム開発

XML/Webサービス関連プロダクトの評価

XML/Webサービス応用技術の普及・推進

- 定例セミナー 総会等での発表
- 学会、雑誌等での発表
- Webページによる情報の発信
- 製品紹介セミナーの開催

活動期間

2004年6月 ~ 2005年5月

成果物

実証実験関係

- メタデータ活用部会と共同で、『道路交通情報 Web サービスを使った複合 Web サービス実証実験』を実施

イベント関係

- 2004年10月 ITS世界会議における実証実験システムを展示
- 2005年5月：ビジネスショウで実証実験システムを展示

セミナー発表関係

- 2004年9月 観光とITに関する調査研究委員会にて、『TravelXMLを利用した Web サービス実証実験』デモを実施。
- 2004年12月：『XMLコンソーシアム関西での活動を盛りあげよう集会』
- 2005年1月 XMLコンソーシアム Dayにて活動報告
- 2005年2月 Developer Summit2005でセミナーを開催

本音で語るWebサービス実装の光と影 ~ 実証実験を通して見えてきた Web サービスの正体 ~

- 2005年2月 (財)日本道路交通情報センター XML/Web サービス関連セミナー
- 2005年5月：ビジネスショウで『道路交通情報 Web サービスを使った複合 Web サービス実証実験』を発表

報道発表

- 2004年10月：プレスリリース XMLコンソーシアム、道路交通情報 Web サービスと連携した複合 Web サービスに関する実証実験に成功 ~ 『ITS世界会議愛知 名古屋 2004』 - 展示会 - にて実証実験デモを展示 ~ 学会、雑誌等での発表

学会、雑誌等での発表

- 2004年7月：日経コンピュータ：『TravelXMLを利用した Web サービス実証実験』
- 2004年7月：情報処理学会デジタル・キュメント研究会(電子情報通信学会オフィスインフォメーションシステム(OIS)研究会合同開催)
- 2005年2月：『月間ニューメディア』OMURA Special 広告記事

(4) メタデータ活用部会

扱ったテーマ：

iPlat 愛知万博プロジェクト・サブシステムの構想、設計、開発

~ Blog 連携、動画 RSS 視聴、SAF 携帯画像リアルタイム投稿&活用

SemanticWeb の Trust を実現するモデルについて

~ RDF 共有ブックマークを使用した RDF 情報の信頼性表現モデル

Semantic Search、視覚化のためのメタデータ活用

ブログ/SNSの技術、運用モデル、ビジネスモデル(例:マーケティング、複数団体協業)
ATOM/RSSとCMS(Contents Management System)
放送・出版業界で最近注目されるメタデータ標準の概要と分析
~ J/Meta、MXF、OAI-PMH

活動形態 経緯:

2回の部会紹介セミナー, 活動内容希望アンケートの実施
11回の定例部会開催, ほぼ毎回の新人歓迎
SNS、eGroupsを活用した日常の議論と情報・アイデア交換
XMLコンソーシアム・セミナー2回、外部セミナー1回の新規内容を主担当で企画、実施
- 7/14 「ユビキタス情報環境におけるメタデータ活用」
- 2/7 PAGE2005「メタデータ活用による次世代コンテンツ流通促進のためのXML標準規格と基盤ソフトウェア」
- 3/14 「XMLデータベース徹底研究」
iPlat開発、評価、運用(含むコンテンツ作成、編集)

(5) ユビキタス 組み込み系部会

活動経過

昨年発足した当部会は、2004年度はXML技術がユビキタスコンピューティング、ユビキタスネットワークにどのように関わり得るのかをモチベーションに、技術、市場、社会、家庭、人間といった幅広い分野を対象に、現状、歴史、未来を包含する調査研究活動を行ってきた。

技術的には、ICタグ、携帯電話、デジタルTV、カーナビといったハードウェア、無線や家庭におけるネットワーク、個人情報管理、新時代のインタフェース、高齢化社会などの問題を内外の講師を呼んでヒアリングを行った。具体的なテーマは下記のとおりである。

第一回部会(2004.7.23)
部会の概要説明
汎用リモコンについて
第2回部会(2004.8.27)
モデリングWG・デジタルTV WG
音声とユビキタス
ユビキタスネットワーク社会とLBS
第3回部会(2004.9.22)
個人情報とプレゼンス活用について
ITSについて
ユビキタスとスタートレック
第4回部会(2004.11.24)
ユビキタス空間への取り組み
xtyテクノロジーの紹介
第5回部会(2004.12.16)
内田洋行ショールーム見学(ユビキタスオフィス)
電子タグの動向とソリューション
第6回部会(2005.1.16)
トッパン・フォームズRFIDショールーム見学
RFIDへの取り組み
第7回部会(2005.2.24)
ユビキタス環境標準化への考察
第8回部会(2005.3.24)
デジタルTVとユビキタス
ネットワークAV機器へのオントロジ適用の検討
ヒトナビ情報共有化の提案
第9回部会(2005.4.19)
高齢者向け予防介護プロジェクトの紹介
第9回部会(2005.5.18)
YRPユビキタス研究所の活動紹介

(6) ビジネス・イノベーション研究部会

部会ミーティング

SOA部会と共催で2004年7月-2005年5月まで毎月1回、計11回開催

主な議論のテーマ

ビジネスプロセス・モデリング手法
ビジネスイノベーション実現におけるITの役割

プロジェクト立ち上げ

「ビジネスプロセス記述とサービス設計の試行」プロジェクトの開始 (2005 年度継続)

2005/3 開始。部会内プロジェクト。メンバー10 名弱。ビジネスプロセス・モデル作成ノウハウ、サービス化手法確立が目的。

・・・販売管理業務をテーマに、ビジネスプロセス・モデルを作成し、そのモデルからSOA におけるサービスを設計する一連のプロセスを試行。

成果発表(SOA 部会と共同)

第6回 XML コンソーシアム Day(2005 年 1 月 13 日)でのプレゼンテーション

販売管理業務を題材にしたビジネスプロセス分析報告

ビジネスプロセス・モデリングに関する調査報告

他団体と協調しての普及・啓発活動

UML フォーラム 2005(2005 年 4 月 26 日)パネル討論会 :XML + UML = Business

成果物

販売管理業務をテーマにしたビジネスプロセス・モデル

コンソーシアム Day やセミナーでのプレゼン発表資料(Web で公開)

販売管理業務を題材にしたビジネスプロセス分析報告

ビジネスプロセスのモデル記述

(7) ContactXML 部会

目的

ContactXML仕様に関する制定・開発・情報公開・情報交換等のContactXML仕様の普及・啓蒙活動を行う

ContactXML仕様を活用したビジネスへの後方支援を行う

活動内容

ContactXML仕様の開発・制定・標準化

ContactXMLの適用研究・事例収集

ContactXML仕様に関する情報の収集、交換ならびに提供を行う場としての部会及び「ContactXML.org」(ポータル・メーリングリスト)の運営

ContactXML仕様の普及・啓蒙活動

上記全成果物のXMLコンソーシアムへのフィードバックと承認申請

活動期間

2002.1 ~

成果物

標準

- ContactXML Version 1.1a 仕様

- ContactXML Version 1.1 仕様

- ContactXML Version 1.0 仕様

(8) TravelXML 標準化部会

活動目的

旅行者、交通機関、宿泊施設、各種サービス機関との間で行われる、取引情報について、業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的とした電子商取引情報のXMLによる標準化提案を目指します。また特にパッケージ旅行商品に関する扱いについてのサポートを第一義の目的として検討します。

活動内容

TravelXML 標準案作成 (作成 WG)

- 旅行業界における商取引についての調査と要件把握

- 旅行業界における商取引のXMLによる標準化案作成

TravelXML 標準の普及・啓蒙 (普及 WG)

- 実装検証・評価

- Web ページ等による情報の発信

- XML コンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及・推進・標準化支援等

活動期間

2003.2 ~

成果物

標準

- TravelXML Version 1.2.1 仕様
- TravelXML Version 1.3 仕様

報道発表

- 2004.8.24
「日本旅行業協会」と「XMLコンソーシアム」旅行業界における電子商取引の標準「TravelXML 1.2」勧告案を発表
～標準化の第2フェーズを開始、扱うビジネスの範囲を拡大～
 - 2004.11.30
「日本旅行業協会」と「XMLコンソーシアム」旅行業界における電子商取引の標準「TravelXML 1.2.1」勧告を発表
～標準化の第2フェーズを開始、扱うビジネスの範囲を拡大～
 - 2005.1.31
「日本旅行業協会」と「XMLコンソーシアム」で共同開発した TravelXML の企業間商取引の実運用での利用が開始
 - 2005.3.2
「日本旅行業協会」と「XMLコンソーシアム」（旅行業界における電子商取引の標準「TravelXML 1.3」勧告案を発表
～標準化の第2フェーズの開発を終了、パブリックレビューを開始～
 - 2005.3.12
「日本旅行業協会」と「XMLコンソーシアム」旅行業界における電子商取引の標準「TravelXML 1.3」勧告を発表
～標準化の第2フェーズを完了し、今後は普及活動を中心に活動～
- コンソーシアム Day/WEEK での発表
- 2004.5.20
旅行業界の商取引向け XML 標準 - TravelXML 1.1.1 - の開発状況
 - 2005.1.13
旅行業界の商取引向け XML 標準 - TravelXML 1.2.1 - の開発状況

(9) コンテンツ利用情報標準化部会

活動目的

著作権者（著作権管理団体も含む）、コンテンツホルダー、配信事業者の間で行われるコンテンツ利用に使われる情報について業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的としたコンテンツ利用情報の XML による標準化提案を目指します。

活動内容

- コンテンツ利用情報 XML 標準案作成（作成 WG）
 - コンテンツ利用情報対象業務についての調査と要件把握
 - コンテンツ利用情報の XML による標準の改善
- コンテンツ利用情報 XML の普及（普及 WG）
 - Web ページ等による情報の発信
 - XML コンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動期間

2003.2～

成果物

標準

- ContentsBusinessXML Version 1.0 仕様

(10) 関西活動準備プロジェクト

活動目的：

関西において XML コンソーシアム部会活動を行うことが可能かの参加企業的意思を調査する。参加企業により会員企業にとって意味ある活動内容をまとめる。更に、部会設立時にスムーズな活動が行えるようテーマを設定し現段階で活動を実施し、拠点を確立する。

活動内容：

- 参加企業調査会合の企画、実施
- XML コンソーシアム 関西での活動を盛りあげよう集会（12月2日）
- 活動内容の検討
- 2005年1月より月次 Meeting
- XML の関西における活用状況調査
- 事例の集約
- Web サービス実装技術習得

仮想システム構築
参加者による情報共有
部会発足時の活動内容検討
XMLの関西における活用状況調査
Webサービス実装
関西における外部団体との合同研究

活動期間

2004年12月～

成果物

関西部会活動要綱
Webサービス実装報告
XML活用事例

以上

2.2005 年度 部会活動計画

(1) SOA 部会活動要綱案

目的

SOA(Service-Oriented Architecture)とはビジネスレベルの"サービス"を組み合わせてアプリケーションの連携や統合を行なうシステム構築の考え方をいう。当部会の目的は抽象的なSOA の概念から具体的なビジネス面でのメリット、システム設計の方針、Web サービスの有効活用の方法等を導きだすことである。さらに得られた情報や知見を外部に発信することで SOA や Web サービスの普及・発展に貢献することを目指す。

活動内容

以下のテーマを中心に活動を行なう。

- サービスの記述、発見、合成、実装に関する規格・技術の調査
- SOA によるプロセス統合、B2B、EC 等の実現事例の収集と分析
- SOA や Web サービス関連ツールや開発環境、実行環境の調査
- SOA の意義の認知や普及のための情報の発信
- SOA 実現に必要なノウハウ、アーキテクチャパターン、デザインパターンの収集と蓄積
- ビジネスモデルの定義から Web サービスによる実装に至る SOA 適用シナリオの作成

2005 年の重点施策

前年度に引き続きSOA の具体的なイメージを開発者/ユーザに提示することを重点施策とする。特に以下の2点を中心に調査や情報発信を行なう。

- (1)SOA の意義や基本的な考え方の普及促進
- (2)パターンやベストプラクティスの提示による SOA の実現イメージの具体化
- (3)ビジネスプロセスモデルの記述の実践によるサービスの設計

活動方法

- 新年度に向けてのオリエンテーションをコンソーシアム Week 中に行なう
- 月例ミーティングでの Face-to-face のディスカッション
- メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
- ビジネスイノベーション研究部会とのコラボレーション(ミーティングの同日開催、メンバー交流)
- 参加メンバー個人による個別テーマや事例の調査
- XML コンソーシアム他部会等との協調による普及推進
- Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
- XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

ワーキンググループ

ワーキンググループの構成や活動形態については 2005 年度の最初のミーティング(6 月を予定)で協議し決定する。

対象者

SOA や Web サービスの実現やビジネス応用について興味をお持ちのかた。プログラミングのスキルは不要。

会員メリット

- SOA 関連情報・ノウハウの獲得
- 参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

体制

リーダー/サブリーダーは 2005 年度の最初のミーティング(6 月を予定)で決定する。

候補

- 天野富夫 日本 IBM
- 牧野友紀 日本ユニシス

(2) セキュリティ部会活動要綱案

目的

XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用に向けて、規格の調査・翻訳・解説を行ない、また、アプリケーションモデルの検討・試作を通じてシステム構築における様々な問題点の解決方法や具体的な実装ノウハウを蓄積すると共に、それらの成果物を公開することによりセキュリティ技術の普及を促進させるべく活動を行なう。

活動内容

- セキュリティ規格の調査、解説
- セキュリティ規格文書の翻訳
- ビジネス適用事例の調査、収集
- 開発ツール、ミドルウェア等の調査および比較検討

モデルの構築とアプリケーションの検討
試作による技術検証 (他の部会との関係による実証実験)

活動方法

メンバー全員による月例ミーティング、WG 別ミーティングの開催
メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
参加メンバー個人によるテーマ別の調査報告の実施
関連製品の紹介セミナーの開催
XML コンソーシアム他部会および他団体との協調による普及推進
翻訳文書、Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

サブワーキンググループ

初回会合において、メンバーの活動要望を聞きながら WG を構成して活動予定

会員メリット

XML 関連情報・ノウハウの取得
XML 技術動向の早期キャッチ・アップ
メンバーで膨大な情報を分担、料理した後、共有！
将来ビジネス発掘のための基礎情報取得
参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

体制

リーダー候補 岡村 (ネット・タイム)
サブリーダー候補 松永 (東京エレクトロン)

(3) Web サービス実証部会活動要綱案

活動目的

実ビジネスシステムにSOAに基づいたWebサービス技術を適用するにあたっての技術的課題を抽出、解決するため、標準技術に基づいた最新技術やWebサービス関連製品を活用したプロトタイプシステムの開発を通して、XML/Webサービス利用技術の向上および普及に努める。

活動内容

プロトタイピング
- 実用システムのプロトタイプ開発
- XML応用規格を利用したプロトタイプシステム開発
XML/Webサービス関連プロダクトの評価
XML/Webサービス応用技術の普及・推進
- 定例セミナー 総会等での発表
- 学会、雑誌等での発表
- Webページによる情報の発信
- 製品紹介セミナーの開催

活動方法

メンバー全員を対象とする定例ミーティングの開催
- ワーキンググループ別の月例ミーティングの開催
- 必要に応じて、ワーキンググループを横断した活動を実施
- 製品紹介セミナーの開催
- メーリングリスト活用による日々の情報交換、Q&A等
他部会、他団体との連携

活動成果・メリット

XML関連情報・ノウハウの取得
- 評価・プロトタイピング:作成した評価報告書およびプロトタイプのソースコードの作成及び公開
- 製品紹介:各企業での製品利用のきっかけに利用してもらう
- 参加企業間での情報交換・人的/ビジネス・ネットワークの構築
情報公開
- Webサイトでの評価報告・プロトタイプの公開
- 学会、雑誌等での発表
参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

参加資格

XMLコンソーシアムの会員でWebサービスに関心があり、開発に参加できること
定例ミーティング又はメーリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

スケジュール概要

月1回の定例ミーティングの開催
XMLコンソーシアムとしてのイベント等に参加

体制案

リーダー : P F U アクティブラボ株式会社 松山憲和
サブリーダー 株式会社 日立製作所 大場みち子
東京エレクトロン株式会社 松永豊

(4) ドキュメント メタデータ活用部会活動要綱案

活動目的:

昨年度は、ブログ/SNS が国内でブレイクし、一般の新聞や雑誌でも当たり前にとりあげられるようになりました。それを支えるのがメタデータ活用の技術とアイデア、運用ノウハウです。特に、文書メタデータ、人間や組織のプロフィール、そして SNS が利用しているイベント・メタデータの3種を巧みに組み合わせて活用していくのが、アプリケーション、ソリューションの価値の源泉になると考えられます。例えば、愛知万博向け iPlat プロジェクトでは、'緯度・経度' という古くから親しまれているメタデータを介して衛星画像と現場のケータイ写真入りブログを地図上で連動させるという組み合わせにより、斬新な付加価値を創り出すことができました。

一方、異種のアプリを連携させるには必ずしも WebServices によるだけでなく、ATOM/RSS、トラックバックなど、メタデータを活用した緩やかな連動の仕組みが相応しい場合も多く存在します。昨年度は、愛知万博 iPlat プロジェクトで、WebService に画像付きブログを緯度 経度データを介して様々な手法で連携させてみた経験から、実際の情報構造に適したインタフェースを組むという柔軟なアプローチが有望なことを悟りました。かように、メタデータ活用による連携は、データ/コンテンツ主導の実装インタフェースとしても極めて有望視されるようになっていきます。

以上、初年度の活動成果を踏まえ、本部会では今年度は、運用・サービスのモデル化や関連技術の調査・分析、特に XBRL や HR-XML 等を活用した基幹系コンテンツ管理とに焦点を当てて、標準技術の知識を共有し、新ビジネスを支えるアプリケーションの実現手法を研究してまいります。

活動内容:

- (a) 各種メタデータ標準、メタデータの役割の強い応用言語の調査と知識共有
- (b) XML-DB やメタデータ、複合/分散コンテンツ管理・活用の各種フレームワーク、モデルの調査
- (c) Blog/SNS 運用など、コンテンツ連携のモデル、アプリケーション・モデルの検討
- (d) メタデータや XML 表現されたコンテンツを梃子にした既存サービス(技術、商品)の調査、分析、評価
- (e) WebService, SOA におけるメタデータ活用の役割の研究と実証評価(iPlat の延長でモデル化、標準化)

2005 年度の重点施策

期限無し団体として仕切り直しをした XML コンソーシアムのオープンさ、間口の広さを象徴する部会として、「入りやすさ」関連 WG、部会、企業、学会 研究会等との連携のしやすさを重視して活動いたします。
このため、年度途中でも常時参加を受け付けております。

- (1) XBRL や HR-XML 等を活用した基幹系システムにおけるメタデータ活用
- (2) 関連研究を横断したコミュニティの形成
 - EAI、EA、各種 B2B、B2C、XML-DB、KM、WebLog などに細分された SIG(会員企業が参加しているもの)へ参加呼びかけ
 - 成果物のとりまとめよりも、多彩な問題意識、目的意識をもつ会員間のコミュニケーション促進
- (3) アプリケーションの追求
 - コンテンツ駆動型のビジネスモデルの調査、分析、評価
 - メタデータや XML 表現されたコンテンツを梃子にしたサービス(技術、商品)の調査、分析、評価
 - アプリケーションを現実の企業情報システム上に配備する BPM
 - ドキュメント・マネジメント/ナレッジマネジメント
 - アプリケーション、Use Case を具体的に想定した XML-DB や複合コンテンツ、メタデータ活用手法
 - 表計算オントロジー、RSsS、RSS 視聴等、過去の試作成果の発展系の追求
- (4) 試作 検証
 - 関連ツール、要素技術の機能性や性能の検証

活動方法

メンバーによる月例ミーティング開催
SNS、ブログ、メーリングリストによる日常の情報交換、ディスカッション
参加メンバー個人によるテーマ別の調査報告の実施
XML コンソーシアム他部会および他団体との協調による普及推進
国内外の学会、他研究機関との研究会共催

技術顧問(慶應&W3C 萩野教授, 名大吉川教授)ら識者を囲んだオープン ディスカッション
XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

ワーキング・グループ候補

SNS/Blog コンテンツ連携 WG
XBRL WG, Human Profile WG, NewsML WG
メタデータ規格調査・利用検討 WG
XML-DB WG
複合コンテンツ WG
ATOM/RSS WG (実装標準、ノウハウの追求)

会員メリット

ドキュメント、メタデータ関連情報 技術 実装ノウハウの取得
SNS コミュニケーション等、運用、デモ付きの講演に参加することによる近未来体験
将来アプリ、ビジネス発掘のための基礎情報取得
参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

[参考] RDF、OWL (SemanticWeb)以外のメタデータ標準の例：

様々なメタデータ規格
汎用 DC (Dublin Core)、RDF (, RSS)
マルチメディア MPEG7
写真 画像 RDFPic <http://jigsaw.w3.org/rdfpic/>
電子政府 MIReG、e-GMS、AGLS、e-Gov
eLearning LOM(Learning Object Metadata)、LIP
News、TV 放送 XMLNews、NewsML、TV Anytime、ARIB、....
音楽 MusicBrainz、...
地理 観光情報 G-XML、JMP、...
フィルタリング PICS
ユーザプロフィール、人事情報 P3P、HR-XML
コンテンツ管理 clDF (Content ID Forum)

連絡先

<http://bizpal.jp> にご入会の上、グループ[XML コンソーシアム]のメンバーリストを見て、
野村 直之、小林 茂、玉川 竜司、赤井 靖雄、藤原 隆弘
の各氏にメールしてください。

(5) コピキタス 組み込み系部会活動要綱案

これまでの調査研究活動をベースに、コピキタスというキーワードに関わるXML 関連技術を整理し、今後の技術、市場、社会、家庭、人間に関わる分野のレポートを作成したいと考える。

基本的な動向として、以下の可能性を考慮している。

- (1) モバイル指向、クライアント指向となるXML 処理
- (2) 個人管理 (PIM) 情報の活用とプライバシー、セキュリティ問題
- (3) アプリケーション分野の推移 (企業ビジネスから社会、家庭、人間へ)
- (4) セマンティック・オントロジへの提言 (全ての管理対象への ID=URI 付与)
- (5) ネットワーク インフラへの提言 (ID=URI とIPV6 との関係付け)

上記の背景としては、下記標準化組織の動向を注目し、必要に応じて連携して進めたいと考えている。

- (1) W3C のモバイル Web イニシャティブ (MWI)、複合ドキュメントフォーマット (CDF) WG
- (2) YRP コピキタス研究所の T エンジンフォーラム
- (3) JEITA AV 機器標準化委員会
- (4) 日本規格協会コピキタス委員会

上記動向をベースに、参照モデルとテーマを設定し、有志で分担してレポートにまとめたいと考える。現状では以下のようなスケジュールを考えている。

第一期(2005.6~9)
基本参照モデルの設定
個別テーマ、分担の設定
第2期(2005.10~12)
分担テーマの調査検討、
素案原稿作成
学会研究会での講演
第3期(2006.1~3)

素案原稿レビュー
最終版作成

なお、レポート作成と平行して、従来からのヒアリングによる調査研究も継続させる。
部会以外のコミュニケーション手段として、メールおよびソーシャル・ネットワーク・サイトmixi を活用している。

(6) ビジネス・イノベーション研究部会活動要綱案

活動目的

ビジネス環境の変化に俊敏に対応し、絶え間ないビジネス変革を継続するために、経営戦略上の施策実現にこれまで以上、深くかつ密接にIT 基盤を対応させることが不可欠となっている。
昨今、EA (エンタープライズ・アーキテクチャ)は、その実現方法の1つとして注目されている。
当部会では、経営目標、経営計画を反映し、ビジネスとIT を明確に関連づけるため、ビジネスモデルの記述方法、ビジネスプロセスの分析・表現手法、対応するシステムの設計方法を研究する。
研究成果の検証のため、現実にあるビジネス・ケースをサンプルにビジネス・ビジョンの理解からビジネスモデルの記述、ビジネスプロセス・モデリング、システム構築まで模擬的に試行するタスクフォースを立ち上げ知見を得る。

活動内容

ビジネスアーキテクチャ記述に関連する規格およびツールの調査
ビジネスモデル定義方法、ビジネスプロセス・モデリング手法の研究
ビジネスアーキテクチャからシステムアーキテクチャの関連付け方法の研究
ビジネスプロセス・モデリングからシステム構築に至る実証検証

2005年の重点施策

2004年度の後半 SOA 部会とともに開始した「ビジネスプロセス記述とサービス設計の試行」プロジェクトの活動を継続し完遂する。モデル駆動によるビジネスアーキテクチャとシステムアーキテクチャの接合方法を中心に調査・研究する。

- (1)SOA 部会との協同研究：ビジネスプロセス・モデルからのサービス設計方法
- (2)BPML.org 等ビジネスアーキテクチャ関連標準規格の調査
- (3)関連有識者を招聘したセミナー開催
- (4)関連外部諸団体との連携による情報共有と協同研究

活動方法

新年度に向けてのオリエンテーションを他の関連部会と合同で開催
月例ミーティングでの Face-to-face のディスカッション
メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
SOA 部会とのコラボレーション(ミーティングの同日開催、メンバー交流)
参加メンバー個人による個別テーマや事例の調査
XML コンソーシアム他部会および他団体との協調による普及推進
Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

ワーキング・グループ

当初、部会内にワーキング・グループを設置せずメンバー全員でディスカッション、研究を実施する。

対象者

IT ユーザー企業業務企画部門、IT ユーザー企業情報システム部門、S/W 提供ベンダー導入支援部門、SI ベンダー上流工程担当部門等、ビジネスとIT の関連付けや融合の方法について興味のある方。
ビジネスプロセス・モデリング初心者参加を前提に活動する。

会員メリット

初級レベルから段階を踏んだメンバーのスキル・アップ
ビジネスアーキテクチャ関連情報・ノウハウの獲得
参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

体制

リーダー/サブリーダーは2005年度の最初のミーティング(6月を予定)で決定する。

候補

牧野友紀 日本ユニシス
天野富夫 日本IBM

(7) ContactXML 部会活動要綱案

目的

ContactXML仕様に関する制定 開発 情報公開 情報交換等のContactXML仕様の普及活動を行う
ContactXML仕様を活用したビジネスへの後方支援を行う

活動内容

ContactXML仕様の開発 制定 標準化
ContactXMLの適用研究 事例収集
ContactXML仕様に関する情報の収集、交換ならびに提供を行う場としての部会及び「ContactXML.org」(ポータル・メーリングリスト)の運営
ContactXML仕様の普及活動
上記全成果物のXMLコンソーシアムへのフィード・バックと承認申請

活動方法

必要に応じて下記の活動を実施する

- メンバー全員による部会の開催
- テーマ毎個人による調査報告の実施
- 他部会と連携した研究、セミナーの開催
- ContactXMLメーリング・リストを使用した意見交換
- 出版等他外部向けコンテンツの作成

活動成果予定

ContactXML Version 1.1a用 XML Schema

参加資格

コンタクト情報の記述・交換に関心があること。
定例ミーティング又はメーリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと。

スケジュール概要

未定

連絡先

活動内容についてのご意見・ご質問は以下におねがいします
xmlcons@fsi.co.jp

(8) TravelXML 標準化部会活動要綱案

活動目的

旅行者、交通機関、宿泊施設、各種サービス機関との間で行われる、取引情報について、業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的とした電子商取引情報のXMLによる標準化提案を目指します。また特にパッケージ旅行商品に関する扱いについてのサポートを第一義の目的として検討します。

活動内容

旅行業界における商取引についての調査と要件把握
旅行業界における商取引のXML標準の改善検討

- XMLスキーマ等の実装レベル標準仕様作成
- 蓄積利用への拡張仕様作成

旅行業界商取引のXML標準化情報 (Travel XML) の普及

- Webページ等による情報の発信
- 活用セミナーの企画・開催
- 実装検証・評価
- XMLコンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動方法

月1回程度のミーティングの実施
商取引に関連する各旅行者との協力による業界情報収集
メーリングリスト活用による情報交換、ディスカッション
主幹事メンバーによる討議資料・報告書等のドキュメンテーション
他部会、他団体との連携

活動成果予定

旅行業界商取引のXML(TravelXML)標準の実証検証 評価報告

参加資格

XMLコンソーシアムの会員で旅行業界商取引の標準化に高い関心を有すること

定例ミーティング又はメールリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

スケジュール概要

- ～2005年6月： 実証検証 評価企画
- ～2005年12月： 実証検証 評価実施
- ～2006年3月： TravelXML標準 (改善版) 勧告化

連絡先

活動内容についてのご意見・ご質問は以下におねがいします

xmlcons@fsi.co.jp

(9) コンテンツ利用情報標準化部会活動要綱案

目的

著作権者(著作権管理団体も含む)、コンテンツホルダー、配信事業者の間で行われるコンテンツ利用に使われる情報について業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的としたコンテンツ利用情報のXMLによる標準化提案を目指します。

活動内容

必要に応じて以下の活動を行う。

- コンテンツ利用情報対象業務についての調査と要件把握
- コンテンツ利用情報のXMLによる標準化案(第2版)作成
- コンテンツ利用情報XML標準化情報の普及
 - = Webページ等による情報の発信
 - = XMLコンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動方法

必要に応じて以下の活動を実施する。

- 標準案作成中は月1回程度のミーティングの実施
- コンテンツ利用に関連する業界団体との協力による業界情報収集
- メールリングリスト活用による情報交換・ディスカッション
- 主幹事メンバによる討議資料・報告書等のドキュメンテーション
- 他部会、他団体との連携

活動成果予定

未定

参加資格

XMLコンソーシアムの会員でコンテンツ利用情報の活用で主導的なポジションにある著作権者(著作権管理団体も含む)、コンテンツホルダー、配信事業者、システム提供のSI企業、著作権許諾支援ソフト提供企業、その他著作権許諾情報に興味を持つ企業などのコンテンツ利用の商取引の標準化に高い関心を有すること

定例ミーティング又はメールリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

スケジュール概要

未定

連絡先

活動内容についてのご意見・ご質問は以下におねがいします

xmlcons@fsi.co.jp

(10) 関西部会活動要綱案

目的

関西で活動を行える会員間での、情報交換と交流を全体の目的とする。参加会員により、XMLの利用状況を調査することで現状の認識を整理し、実装による会員の技術力向上を目指しながら、利点・問題点を共有化する。これらを通じて、関西でのXML、Webサービス、SOA等の普及活動の活性化に努める。

活動内容

XMLを根幹のキーワードにWebサービス、SOAに至るまでを、会員間の交流を主たる目的としながら、以下の活動を行うこととする。

各要件に対してはサブグループを構築し活動を行うが、定例会では全員を対象として、座談形式で意見交換を行い会員全体での情報共有を図る。

関西での XML 活用事例の調査
文書活用から、Web サービス、SOA に至るまで、企業による使われ方の調査
Web サービス実装
仮想システムを通じた Web サービス実装
地域性を生かした実装モデルの調査
学校、団体との共同研究を目指し活動
情報発信
セミナー実施
活動メンバーの増加を目指し企画

活動方法

セミナーによる勉強会の実施 (東京で開催されたセミナー、関西独自セミナー)
月例ミーティングでの Face-to-face のディスカッション
メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
他団体、学校との連携

活動成果

実装経験の共有
初歩からの経験における情報の公開
調査内容の公開
関西における普及動向の報告

2005 年の重点施策

関西での活動にあたり、参加会員の意識統一を図り、恒常的な拠点とすべく、地盤を築くことを重点課題とする。
関西拠点を継続的な活動の場とすべく、今後につなげる活動のシナリオを以下に記載する。

- (1)現状の普及動向の認識
- (2)関西での活動の活性化
セミナーの実施 (東京部会連携)
実装による経験
- (3)関西に拠点を置く団体との共同研究

対象者

XML コンソーシアムの会員で関西における活動に興味をもたれる方
定例 Meeting やメールによる意見交換に参加でき、情報の共有に努めることが可能な方

会員メリット

関西を中心とした参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立
地域の状況を把握
実装を通して技術の習得

体制

ワークグループ

全員で共通認識を持つ観点より、現状は作成しない。

体制案

リーダー : 芦田
開催時に、活動メンバーにより、リーダーの決定及びサブリーダーの有無を含め、検討する。

以上

3. XMLコンソーシアム組織



